

I 北翔大学短期大学部の概要

1 ライフデザイン学科

2 こども学科

I

北翔大学短期大学部の概要

北翔大学短期大学部は、昭和38年（1963年）北海道女子短期大学被服科をもって開学しました。その後、工芸美術学科、保健体育学科、初等教育学科、経営情報学科を増設し、57年にわたり建学の精神と教育理念に基づき、豊かな自然と文化環境の中で生活に関わる総合的教育を展開してきました。

平成15年度（2003年度）には服飾美術学科、保健体育学科、経営情報学科の3学科を改組転換し、地域総合科学科として人間総合学科を設置しました。平成17年（2005年）には初等教育学科を小学校・幼稚園教諭免許取得に加え保育士養成課程を置く「こども学科」に名称変更を行いました。平成24年度（2012年度）には、幅広い分野にわたる教科目から自らのライフステージを構築していくという教育の考え方から人間総合学科を「ライフデザイン学科」と名称変更をいたしました。

1. ライフデザイン学科

ライフデザイン学科は、学生が自己の将来設計（ライフデザイン）を認識し、社会人になるための基礎力を身に付け、目指す職業につながる資格を取得して、自己のライフデザインと将来の進路をイメージしながら学べる学科です。短期大学57年の歴史と実績を踏まえ、これまでの文部科学省地域総合科学科構想の初年次に適格認定を受けた人間総合学科を、その目的は継承しつつ、時代の要請に合致した教育内容としてさらなる充実を図り、より具体的に学びを理解し易いように、コース設定の見直しを図り、一層充実した教育課程を設定しています。

ライフデザイン学科の教育課程は、ライフデザイン、キャリアデザイン、ファッション、舞台芸術に配置された多様な科目から構成されています。自分の興味や進路に合わせて、ユニットを自由に組み合わせる履修することができます。従って、一つの専門分野をじっくり学ぶことができるのはもちろん、異なった分野についても広く学ぶことができるようになっています。なお、1年次前学期から学生のライフデザインに合わせてキャリアデザインコース・ファッションコース・舞台芸術コースの3コースのうちいずれか1コースを選択して学ぶことになります。

<ライフデザイン学科の3つのポリシー>

○ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。

【知識・理解】

- (1) 感性豊かな、魅力ある人間性を持ち、社会人としての幅広い教養を身に付けている。
- (2) キャリアデザイン、ファッション、舞台芸術のいずれかの専門分野での学修を通して、社会に参加していくための実践的な智慧を身に付けている。

【思考・判断】

- (3) 自らのライフステージにおいて課題を設定し、その課題を解決するために、専門分野での学修を敷衍し、考察することができる。

【関心・意欲・態度】

- (4) 地域社会において、積極的に自身の学修成果を還元することができる。
- (5) 他者を尊重し、共生社会の実現に寄与することができる。

【技能・表現】

- (6) 専門分野での学修を通して、高い職業的技能を身に付けている。
- (7) 自身の考えや立場を他者に伝え、他者との調整ができるコミュニケーション能力を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

【教育内容】

- (1) 短期大学部共通科目では、短大での学修への導入科目として「基礎教育セミナーⅠ」、「基礎教育セミナーⅡ」を配置する他、英語、情報機器操作の基礎を修得する科目を配置している。
- (2) コース共通科目の必修4ユニットでは、本学科の5つの教育の柱である教養・専門・総合・キャリア・編入教育を理解するための「ライフデザイン」、「キャリアデザイン」等の科目を配置、2年次に配置される「専門ゼミⅠ」、「専門ゼミⅡ」では、各自が設定した課題について、1年間研究し、論文、作品として成果物の発表を行う。
- (3) コース共通科目の選択4ユニットでは、併設の北翔大学との連携により、デザイン・美術・健康づくり・第2外国語等の科目を配置し、幅広い教養を身に付ける。また、本学科の特色の1つである地域密着型インターンシップ科目として、「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」を配置している。
- (4) コース専門科目のキャリアデザイン4ユニットでは、経済・経営・秘書・会計・簿記・地域等に関わる科目を配置し、学期・年次進行に伴い、基礎から発展へと段階的に学修できる体系としている。
- (5) コース専門科目のファッション4ユニットでは、理論・作品制作・ビジネス・ファッションショー構成等に関わる科目を配置し、学期・年次進行に伴い、基礎から発展へと段階的に学修できる体系としている。
- (6) コース専門科目の舞台芸術4ユニットでは、バックステージ・演技・声優・ダンス等に関わる科目を配置し、学期・年次進行に伴い、基礎から発展へと段階的に学修できる体系としている。

【教育方法】

- (1) コース専門科目では、双方向型授業展開を重視し、Plan→Do→See→Thinkのサイクルの循環により、知識・スキルを高める学修を行っている。
- (2) コース専門科目では、学内外における実習を多数設定し、学修内容を実践する機会を用意している。特に、地域や異世代と交流し知見を拡げさせる実習を重視している。
- (3) 学科独自ツールである「履修記録ノート」により、入学時からの目標設定と学期末、年度末等の節目における達成度の確認を行っている。
- (4) 担任制度により、入学時、学期末、年度末等の節目に面談を行い、学修状況確認と卒業後の進路について指導を行っている。

【教育評価】

- (1) 各授業科目において、ディプロマ・ポリシーに掲げた資質や能力を修得させるために、カリキュラムマップ上の科目の位置付けを考慮した総合的な評価を行う。
- (2) 総合的な評価は、各授業科目の特性に応じ「筆記試験」、「実技試験」、「課題評価」、「作品評

価」、「受講態度」、「確認テスト」、「発表」等を組み合わせて多角的に行う。実習を含む科目では、実習への取組状況や積極性、貢献度等も含めて評価を行う。

○アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。

- (1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
- (2) 高等学校までの履修内容を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。
- (3) キャリアデザイン、ファッション、舞台芸術のいずれかの専門分野に興味を持ち、修得した知識や経験を社会で役立てたいという意欲がある。
- (4) 他者の考えに耳を傾け、理解しようと努める態度を有している。
- (5) 自身の興味や考えを論理的に考察し、他者に説明することができる。

＜ライフデザイン学科の特色＞

ライフデザイン学科は、「教養教育」「専門教育」「総合教育」「キャリア教育」「編入教育」を柱に幅広い教養と豊かな人間性を身に付けるため総合的な教育を目指しています。

- ① **教養教育**：コミュニケーション能力、チャレンジ精神、主体性、協調性といった人間的資質の向上を目指して、基礎ユニットとライフデザインユニットの科目を充実させています。
- ② **専門教育**：「キャリアデザインコース」では、「秘書実務」や「マネジメントゲーム」のような実践的な科目を通して学び、「ファッションコース」及び「舞台芸術コース」では、北翔大学教育文化学部芸術学科との科目や教員の連携のもとで、それぞれの専門的知識と技術の修得を目指します。
- ③ **総合教育**：学んだ専門知識・技能を生かし、それぞれの専門をコラボレーションさせるイベントを多く実施しています。イベントの企画・実施・運営に主体的に係わることで、自らの課題を発見し、その課題解決の過程を通して、総合的な判断力を磨き、実践力を高め、学生相互、学生と教員間等の係わりを深めます。本学科では協働することによって互いを高め合うこのような授業や行事を実施しています。
- ④ **キャリア教育**：就業意識・基礎学力・ビジネスマナーを養い社会に通用する人材育成を目指して、ライフデザイン必修科目「キャリアデザイン演習」に加えて「プロジェクトワーク」「インターンシップ」のような実践的なキャリア科目を置き、キャリア教育の充実を図っています。
- ⑤ **編入教育**：本学科で学んだ専門性を活かし、さらに学問追求に意欲を燃やす学生には大学への編入の道を整えています。

このようにライフデザイン学科は、学生の職業意識の変化に伴う多様な学習への期待に応える、幅広い教育内容による多様な履修形態を整えた学科です。本学科での学びを通じて自己を磨き、地域・社会と協調して主体的に行動できる人として育っていくことを期待しています。

＜ライフデザイン学科の沿革＞

- 1963（S38）年1月 北海道女子短期大学設置認可（被服科）
- 1964（S39）年10月 被服科を服飾美術科に科名変更認可
- 1966（S41）年1月 工芸美術科、体育科設置認可
- 1969（S44）年12月 体育科を保健体育科に科名変更認可
- 1970（S45）年4月 保健体育科を体育コースと養護教諭コースとする
- 1986（S61）年12月 経営情報学科設置認可
- 1996（H8）年12月 服飾美術科を服飾美術学科、工芸美術科を工芸美術学科、

	保健体育科を保健体育学科に科名変更認可
2001 (H13) 年 5 月	工芸美術学科廃止認可
2002 (H14) 年 7 月	人間総合学科設置認可
2003 (H15) 年 4 月	人間総合学科（服飾美術系、スポーツ科学系、養護保健系、経営情報系、 総合教養系）開設
2004 (H16) 年 4 月	舞台芸術系の追加
2009 (H21) 年 4 月	経営情報系をビジネス系に変更。養護保健系を人間福祉学部へ発展的に統合し 廃止。メディアデザイン系、美術系、音楽系を追加
2011 (H23) 年 6 月	人間総合学科をライフデザイン学科に学科名称変更届出

2. こども学科

こども学科の前身は初等教育学科であり、昭和44年3月に、文部大臣より設置が認可されました。同年4月には第1期生32名が入学し、幼稚園・小学校の教員養成の学科として出発しました。

本学が初等教育学科として設立の準備を始めた昭和40年代初めころは、小学校教員の養成は北海道教育大学のみであり、高等学校女子生徒の小学校教員志望が多いにもかかわらず、その受け入れには限界がありました。そのため、教員を目指す女子生徒は、進学希望を実現するのが困難な状況でした。

このような社会的背景から、当時の初等教育学科は、教員を目指す女子生徒の門戸を開く学科として、本道の大きな期待を担い、私学では本道で唯一の幼稚園及び小学校教員の同時養成を目指して発足しました。そして、これまで多くの教員を送り出し、北海道教育の充実・発展に寄与しています。

さらに、平成14年度からは、保育士養成施設として厚生労働省より認可され、保育士及び幼稚園・小学校教員の養成機関として今日に至っています。

平成17年度からは、こどもを取り巻く環境や社会的な課題に関する洞察力を養い、教育・保育等に関わる優れた実践力を有する人材を育成することを教育理念として、「こども学科」に名称を変更しました。これにより、こども学科の教育目標を「こどもの保育や教育及びこどもに関する諸課題に適切に対処できる技術や実践力を身につけた人間性豊かな人材の育成」としました。

平成26年度からはコース制を導入しました。保育者・教育者を目指すにあたり、感性と人間性を豊かにする学びや実践的・体験的な学習を重視しつつ、コース毎の特色ある学びを深めています。

このように、本学科においては、保育士資格、幼稚園教諭2種免許状、小学校教諭2種免許状が取得できる教育課程を整備して、乳幼児や児童等に関する幅広い進路選択を可能にしていることから、学生みなさんが、これからの社会が求める保育や教育、子育て支援、そしてこどもに関する様々な課題に適切に対処できる保育者・教育者をめざして、実践力を身につけることを期待しています。

＜こども学科の3つのポリシー＞

○ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。

【知識・理解】

- (1) 感性豊かな、魅力ある人間性を持ち、社会人としての幅広い教養を身に付けている。
- (2) 保育・教育の分野及び保育、教育のいずれかのコースでの専門的な学修を通して、保育者・教育者として社会に参加していくための実践的な知恵を身に付けている。

【思考・判断】

- (3) 自らの生涯設計において課題を設定し、その課題を解決するために、専門的な分野での学修を生かし、社会に役立てようと考察することができる。

【関心・意欲・態度】

- (4) 教育現場及び地域社会において、積極的に自身の学修成果を還元することができる。
- (5) 他者を尊重し、共生社会の実現に寄与することができる。

【技能・表現】

- (6) 保育者・教育者を目指す専門分野での学修を通し、高い職業的技能を身に付けている。
- (7) 自身の考えや立場を他者に伝え、他者との調整ができるコミュニケーション能力を身に付けて

いる。

○カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

【教育内容】

- (1) 短期大学部共通科目では、短大での学修への導入科目として「基礎教育セミナーⅠ」、「基礎教育セミナーⅡ」を配置する他、英語、情報機器操作の基礎を修得する科目を配置している。
- (2) コース共通科目では、保育士関連科目、保育士・幼稚園教諭関連科目、幼稚園・小学校教諭関連科目等を配置し、保育士資格、教員免許状等取得に必要な知識や実践力を段階的に学ぶことができるよう教育課程を編成し、保育者・教育者の土台作りを行っている。
- (3) コース共通科目での学びを通して、「社会福祉主事任用資格」の取得を位置付けている。
- (4) コース専門科目では、各コースの専門性を伸ばすべく、より高度で専門的な科目を配置し、学びの深化を図っている。
- (5) コース専門科目での学びを通して、保育コースでは「幼児体育指導者検定2級」、「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級・1級」いずれかの取得を位置付けており、教育コースでは「こども環境管理士2級」の取得を推奨している。
- (6) このように、学科横断的なコース共通科目そして専門性を重視したコース専門科目へと2年間で段階的に学修できる体系としている。

【教育方法】

- (1) 0歳から18歳までの発達段階に応じたこども理解や指導の方法、ならびにその年齢幅においても普遍的である教育に対する情熱やこどもに対する接し方などを、一貫して学べるようにしている。
- (2) 自主的で対話的な深い学びを重視し、知識やスキルなどの他、コミュニケーション力を高める学修を行っている。
- (3) 保育所、児童養護施設、幼稚園、小学校等での実習を設定し、学修内容を実践する機会を用意している。それらの実習では、こどもに関わり、先生方と協力して経験を深め、教育に対する意欲をさらに高めることを重視している。
- (4) 担任制度により、入学時、学期末、年度末等の節目に面談を行い、学修状況確認と卒業後の進路について指導を行っている。

【教育評価】

- (1) 各授業科目において、ディプロマ・ポリシーで示した能力や資質が育成されているかどうかを見極める振り返りを行う。また、実習での活動の様子や積極性なども含めて評価する。
- (2) 授業後に、学びの振り返りを行うなど、習熟度を学生自ら確認できるようにする。
- (3) コース共通科目、コース専門科目、実習での活動の様子、免許・資格取得状況等から、2年間（長期履修生は3年間、4年間）の学びの成果を総合的に評価する。

○アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。

- (1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
- (2) 論理的・社会的なものの見方・考え方ができる。
- (3) 保育者・教育者を目指す上で、保育、教育コースの専門的な分野に興味や関心を持っている。
- (4) 修得した知識や経験を保育・教育現場や社会で役立てたいという目的意識や意欲がある。
- (5) 自分の考えを論理的に考察し表現するなど、コミュニケーション能力を身に付けている。
- (6) 創造したり表現したりすることの技能が備わっている。

＜授業科目の履修及び単位の修得＞

①単位の修得

卒業要件単位及び免許状及び資格取得に係る所定の単位修得に当たっては、本短期大学部学則及び履修規程並びにこども学科の履修指導に従い、所要の授業科目を履修しなければなりません。

②履修の方法及び留意事項

- ・短大共通科目・学科専門科目の履修においては、資格及び免許状の取得に必修な科目とその他の選択科目があり、必修の共通科目は必ず履修しなければなりません。
- ・履修する授業科目及び単位数は、取得希望の資格及び免許状の種類に応じて、北翔大学短期大学部保育士養成課程履修規程（Ⅲ 学習 2.）及び北翔大学短期大学部教職課程履修規程（Ⅲ 学習 2.）の定めるところにより、必要な単位を修得しなければなりません。
- ・こども学科の卒業要件科目として、取得希望の資格及び免許状の種類に関係なく、必ず履修しなければならない科目（必修科目）があります（Ⅲ 学習 2. こども学科授業科目一覧表○印）。必ず履修してください。
- ・学科の推奨する科目は、保育・幼児教育・小学校教育における感性・技能のより一層の育成を目指し、音楽的内容、運動的内容、造形的内容に焦点をあて、それら基礎学習をふまえた発展・応用的科目として位置づけたものです。より質の高い保育者・教育者を目指す上で、履修をとくに奨める科目として配置しています。

＜取得可能な資格・免許＞

こども学科においては、次の資格・免許を取得することができます。

資格要件等については、Ⅲ 学習 2. を参照のこと。

①国家資格・免許状

●保育士資格 ●幼稚園教諭 2 種免許状 ●小学校教諭 2 種免許状（教育コース）

※保育士資格は、卒業前に登録事務処理センターに申請し、その後 6 月初旬～中旬頃の証書授与となります。

②その他の資格・検定

●社会福祉主事任用資格 ●幼児体育指導者検定 2 級（保育コース） ●幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格 2 級・1 級（保育コース） ●こども環境管理士 2 級 ●准学校心理士

＜保育実習、教育実習及び介護等体験実習＞

保育士資格や幼稚園・小学校教諭 2 種免許状を取得するには、卒業年度に実施する保育実習や教育実習が必修となっています。

この実習は、日頃の学習成果を、現場で実践する最も重要な学習活動であり、実習の経験により、保育者や教員への希望を一層強くする学生がほとんどです。

保育・教育実習の事前研修として、1 年次または卒業前年度の長期休業期間中に、幼稚園等、小学校での観察実習、児童福祉施設等の見学を実施します。

①保育士資格の取得の場合

保育実習Ⅰ（保育所等10日間、児童福祉施設等10日間、計20日間）が必修であり、保育実習Ⅱ（保育所等10日間）と保育実習Ⅲ（福祉関係施設10日間）のいずれかを選択必修とします。ただし、保育実習Ⅲは不開講になる場合があります。

②教育職員免許状の取得の場合

3 週間にわたる教育実習（幼稚園等・小学校）が義務付けられています。また、小学校教諭 2 種免許状取得の場合は、教育実習の他に介護等体験実習（特別支援学校 2 日間と福祉施設 5 日間、計 7 日間）も必修であり、施設長の実施証明書がなければ免許状申請ができないことになっています。

③各実習の区分・履修方法等は次の通りです。

こども学科の保育実習・教育実習履修方法の例

():単位数、◎：必修

区 分	教育実習(4)	保育実習Ⅰ(4)	保育実習Ⅱ(2)
保育士資格		◎保育所等及び施設	◎保育所等
幼稚園教諭 2 種	◎		
小学校教諭 2 種	◎		

④保育実習（保育所等・保育所以外の児童福祉施設等）（「保育実習Ⅱ」を選択した場合）

- ・ 授業科目名：「保育実習Ⅰ」（4単位）及び「保育実習Ⅱ」（2単位）必修
- ・ 実習時期：保育所等8月～9月、保育所以外の児童福祉施設等9月～12月の期間内
（実習の時期は、実習先の都合で変更することがあります。）
- ・ 実習場所：保育所実習は原則として道内出身者は出身地域内の保育所等で行います。
保育所以外の児童福祉施設実習等は北海道内の指定された施設にて行います。
- ・ 実習要件：保育実習を履修するには、次の条件を満たしていること。
 - 1) 次の3科目全てを履修していること。
「保育原理」「保育実習指導ⅠA」「保育内容総論」
 - 2) 修得すべき保育士必修科目において、規定科目数以上の不可がなく、こども
学科会議にて認めた者。
 - 3) 学力が適格であり、受講態度が良く、挨拶・言葉づかい・服装など保育者、
教育者として適切な言動ができていること。
 - 4) 保育士養成課程履修費を納入済みであること。
 - 5) GPAが基準値以上であること。

⑤教育実習（幼稚園等・小学校）

- ・ 授業科目名：教育実習（4単位）必修
- ・ 実施時期：5月下旬～6月中旬
（実習の時期は、実習先の都合で変更することがあります。）
- ・ 実習場所：原則として道内出身者は出身地域内の幼稚園等または小学校で行います。
- ・ 実習要件：教育実習を履修するには、次の条件を満たしていること。
 - 1) 次の4科目全てが履修・修得済みで、教職センター運営委員会で認めた者。
「教職概論」「教育原理」「教育相談とカウンセリング」「日本国憲法」
また、「教育実習講義Ⅰ」は必ず履修していなければならない。
 - 2) 学力が適格であり、受講態度が良く、挨拶・言葉づかい・服装など保育者、
教育者として適切な言動ができていること。
 - 3) 教職課程履修費を納入済みであること。
 - 4) GPAが基準値以上であること。

⑥保育実習・教育実習期間中の他の授業等の扱い

保育実習及び教育実習については、多くが通常の授業中に学外集中講義として実施することになるため、この期間は他の授業に出席できないことになります。

このため、実習期間中に出席できない授業科目については、不足分を補うための補講を実施します。

補講は、春休み期間、実習前後の平日の空き時間、土曜日・長期休業期間等を利用して実施されるため、必要な科目の受講について常に留意しなければなりません。

＜こども学科の主な行事＞ ※行事の内容や開催時期が変更となる場合があります。

① 1 学年

●芸術鑑賞会（関連授業：基礎教育セミナーⅠ）前学期

優れた美術作品等を鑑賞することにより、感性を磨き、将来の保育者・教育者として質の向上を目的にしています。

●大学祭への参加「こどもの国」(関連授業：保育内容演習Ⅰ、基礎教育セミナーⅠ・Ⅱ) 後学期

学校行事としての大学祭において、学科の特色を生かした取り組みを実施します。地域のこどもを対象とする体験コーナー・遊具・遊び場づくり等を実施し、こどもたちとの積極的なかわりを通して学びを深めます。

●研修旅行（関連授業：基礎教育セミナーⅠ・Ⅱ）前学期

学友や教員とのコミュニケーションの場とするとともに、見学や体験活動等を通して、保育者・教育者としての力量を高め、社会人として生活する上での基本的なマナーを身につけることを目的に日帰りを実施します。

●マナー講習会Ⅰ（関連授業：基礎教育セミナーⅡ）後学期

専門の講師による指導により、日頃の言葉づかいや話し方を見直すとともに、基本的な挨拶や立ち居振る舞いなど、社会人としてのマナーを身につけることを目的にしています。

② 2 学年

●芸術鑑賞会（関連授業：応用教育セミナーⅠ）前学期

優れた舞台芸術やコンサート等を鑑賞することにより、感性を磨き、将来の保育者・教育者として質の向上を目的にしています。

●マナー講習会Ⅱ（関連授業：応用教育セミナーⅡ）後学期

専門の講師による指導で、本実習や間近に迫る社会生活に必要なマナーと、社会人としての素養などを身につけることを目的にしています。

●実習報告会（関連授業：教育実習講義Ⅱ、保育実習指導ⅠB、応用教育セミナーⅠ・Ⅱ）前後学期

教育実習及び保育実習での成果、及び下級生へのアドバイスを発表します。

また、教育・保育実習の成果の一つである手遊びや保育活動などの実技についての交流会をおこないます。

＜こども学科の沿革＞

- 1969年（S 44） 初等教育学科設置認可（入学定員50名）
小学校教諭・幼稚園教諭 2 級（現 2 種）普通免許状取得課程認可
- 1971年（S 46） 第 1 期生卒業
- 1978年（S 53） 初等教育学科定員増（入学定員100名）
- 1979年（S 54） 専攻科「初等教育専攻」設置認可（定員20名）
- 2002年（H14） 保育士養成施設認可
- 2004年（H16） こども学科設置受理
- 2005年（H17） こども学科開設（旧初等教育学科から科名変更）
こども学科定員増（入学定員140名）
- 2011年（H23） こども学科長期履修制度導入
- 2014年（H26） コース制導入（保育・音楽・教育コース）
- 2020年（R 2） コース制改編（保育・教育コース）

